

2021/1/18-2

(うと Q 世話し SNS 非公開「恐ろしい話」回避のための超弩級難問のご提示) 書庫版



今日はちょっと恐ろしい話。

ひとによっては、生半可なホラーより恐ろしいかもしれません。

10年ほど前にあるのみ屋さんで偶然隣に座った厚生省(当時の名前)あるお役人さんが「問題は少子化ではないのです。高齢者が死なないことなのです」

とびっくりするようなことを言いました。

(この意見に賛同するという意味で掲載しているのではなく、そういう事実があったと言うことです)

しかし、本日は敢えて之を少しもじって

「問題は、天候不順やウイルスにあるのではない。地球上に人間が増えすぎた事だ」

これをいつもの連立方程式風を立て、その解法の試みをするのに以下のようなイメージを描くと分かり易いと思いますので、ちょっとやってみます。

「医療技術を持った体長30メートルのプロントザウルス(恐竜)属が、その技術のおかげで地球上に繁殖、繁茂したらどうなっていたか」

です。

そうしてもう一つ連立方程式を立てて三連立方程式風にすると

「恐竜の持てる医療技術のおかげで寿命は延びたが、食べる草もなく、かといって死ぬことも出来ない。只寿命が延びただけだったとしたら。寿命が延びたはいいが餌も、やることもなく暇なだけだったとしたら、どうなるか？」

こんなことを書くと、先走りをしたり早とちりをしたりする一部の人は、早速にも

「優生保護」だの「人工的淘汰(選別のこと)」だの言い出しそうなので、釘を刺しておきますが、自分の目的は当然そんなことにはありません。

自分の目的は

「地球様と相反する利害関係者になりつつある我々人目人科」は地球様とどう折り合っていけば良いのかを考えざるを得ないときになっておりませんか？」

という問題提起をしたい。そして一緒に、この超弩級の難問を考えてみましょう。ということだけでございます。決して上述の様な選別という変な考えをしませんようにと言う付帯事項も付けて進言申し上げたいので、ございます。

